

# 甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和4年2月3日（木） 作成

校長 「内藤 和彦」

記述者 職名（教頭）「堀内 貴司」

学校教育目標 『やさしく かしこく すこやかに』

- (1) 心豊かで 思いやりがある子ども
- (2) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- (3) 心身共に健康で安全な生活をめざす子ども

学校経営目標

- (1) 生きる力の育成 ～心の教育の充実を基軸に三つの力をバランスよく育む～
- (2) 学校・家庭・地域の連携 ～開かれた信頼される学校づくりの推進～
- (3) 職員の資質の向上 ～教師こそ最大の教育環境であることを意識した実践～

学校経営の基本方針

- (1) すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- (3) 確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- (4) 体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。
- (5) 児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- (6) 不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- (7) 教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- (8) 学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- (9) 児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- (10) 特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童の共通理解と適切な指導に努める。
- (11) 学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い育てるという基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- (12) 教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- (13) 教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。
- (14) 開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信しつつ、家庭や地域社会との連携や学校評価システムの効果的運用を図り、教育効果を高める。

本年度の努力点

- (1) 誰にでも居場所があり、学び合う学級集団づくりの実践
- (2) ICTも活用した楽しく、わかりやすい授業の実践
- (3) いじめ、不登校、特別な支援を必要とする児童等への効果的な支援・指導の実践
- (4) 働き方への社会的要請事項をふまえた教育・職場環境づくりの実践

**1 全体評価** 回答 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない

**【教職員】**

○全設問における肯定的回答（A・B）の平均が99.0%であり、高い評価である。いくつかの設問において、否定的回答（C・D）が若干名あるものの、すべての設問において95.0%以上である。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。

**【保護者】**

○全体的にはB回答が多いが、ほとんどの設問が肯定的回答（A・B）である。

○学校の教育活動に関する設問では、肯定的回答（A・B）の平均が81.1%であり、多くの保護者が学校の教育活動に対して信頼を寄せているとうかがえる。

○家庭の教育活動に関する設問では、肯定的回答（A・B）の平均が84.7%であり、高い評価である。

**【児童】**

○肯定的回答（A・B）の平均が90.2%と高い評価であり、児童は生き生きと学校生活を送っていると感じられる。

○学校生活に関する項目で、A回答の割合が80%を超えた設問は、「先生はよく勉強を教えてくださいますか。（85.8%）」「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。（80.9%）」の2つである。すべての設問において、A回答の割合が多くなるとよい。

**【保護者・児童】**

<挨拶>

※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合

【保護者】「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。

（75.7%）」

「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。（89.4%）」

「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。（94.8%）」

【児童】「だれとでもあいさつをしていますか。（85.3%）」

・学校では、児童会活動で朝の挨拶運動に取り組んでいる。旗振り当番の保護者や地域の見守りボランティアの方々にも元気よく挨拶ができるよう、今後も継続して指導していく。

○家庭での生活において改善したい項目は、以下の通りである。

・「（お子さんは）家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」の設問では、「2時間以上使っている。」と回答している保護者が33.6%（224人）、児童が34.1%（229人）ある。

・「（お子さんは）家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」の設問では、「全くしない。」と回答している保護者が36.3%（242人）、児童が21.7%（145人）である。

・「朝ごはんを食べて登校していますか。」

<保護者>「あまり食べていない。（19人）」「食べていない。（3人）」

<児童>「あまり食べていない。（20人）」「食べていない。（10人）」

・児童アンケート「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」の設問では、「午後11時以降」と回答している児童が、21人である。

・「（お子さんは）今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の設問では、肯定的回答（A・B）は、保護者が52.8%、児童が68.1%であり、他の設問に比べて、低い評価である。

<b>2 設問ごとの評価結果（達成状況・改善策）</b>	
<b>I 学校教育目標に関して・学校経営について</b>	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、99.5%である。「学校教育目標」「学校経営」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」の設問は、A回答が、他の設問に比べてやや少なく、1人がC回答である。</p>
改善策	<p>◆「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」の設問では、A回答（60.5%）がB回答（37.2%）を上回っている。学校全体としてはPDCAサイクルがしっかり機能しているので、教職員一人一人にさらに意識して取り組ませていく。日々の教育活動が前例踏襲ではなく、子どもたちにとって意義あるものとなるよう、今後も反省をしっかり生かして改善を図っていく。</p>
<b>II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、98.5%である。教職員それぞれが、双葉東小教職員の一人であると自覚し、協力して学校運営に参画していると言える。</p> <p>・「あなたは、職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」の設問は、A回答が88.4%であり、最も高い割合である。何か問題が発生した時はもちろんのこと、何事も管理職に相談できる職場の体制が整っていると言える。</p> <p>・「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」の設問は、A回答が86.0%であり、高い割合である。教職員数が50名と大人数であるが、一人一人がチーム双葉東小の一員として取り組むことができている。</p> <p>・「あなたは校務支援システム十分活用できていますか。」の設問は、A回答が32.6%と他の設問に比べて最も割合が低く、2人がC回答である。</p> <p>・「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」の設問は、A回答が34.1%と、やや割合が低く、1人がC回答である。</p> <p style="text-align: center;">※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【保護者】「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。（91.3%）」</p> <p>【児童】「学校は楽しいですか。（93.7%）」</p> <p>・学校が、児童にとって好意的な場所となっている。</p>
改善策	<p>◆昨年度から校務支援システムが導入されたが、操作方法の分かりにくさもあって、その機能を十分活用できていない面がある。業務の効率化を図るためにも、校務支援システムの有効活用法、その操作方法を県から情報提供してもらいながら、学び合う場を作っていく。</p> <p>◆今年度の校内研究は、研究主題「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」、副主題「ICTの効果的な活用を通して」を掲げ、具体的には、児童一人一台端末をどのように活用して授業を行ったらいいかについて研究を進めた。充実した校内研究が行うことができたが、全教職員がさらに主体的に取り組むことができるように、今後も研究主任を中心に校内研究を推進していく。</p>
<b>III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>○全体的に、A回答よりもB回答の割合が多いが、肯定的回答（A・B）の平均が、98.4%であり、より良い授業を目指し、教職員一人一人が努力を重ねていると言える。</p> <p>・「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」の設問が、A回答71.4%であり、最も高い割合である。</p>

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」の設問は、A回答32.4%で他の設問に比べて最も割合が低い。</li> <li>・「あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。」の設問はC回答が1人、「あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。」の設問はD回答が1人、「あなたは、外国語、国際理解教育の学習が充実したものになるよう、努めている。」の設問はC回答が2人である。</li> </ul> <p>【児童】 ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生はよく勉強を教えてくださいか。」の設問は、肯定的回答 (A・B) が99.4% (A回答85.8%, B回答13.6%) であり、とても評価が高い。</li> <li>・「学校の授業は楽しいですか。(90.8%)」「国語の授業の内容はわかりますか。(95.5%)」「算数の授業の内容はわかりますか。(94.6%)」の設問は、どれも肯定的回答 (A・B) の割合が高い。</li> <li>・「授業で (勉強) でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」の設問は、肯定的回答 (A・B) が78.1% (A回答36.4%, B回答41.7%) であり、やや低い。</li> </ul> <p>【保護者】 ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。(92.8%)」「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。(84.0%)」</li> <li>・「(児童の回答) 宿題を忘れずにしていますか。(95.8%)」「お子さんは、宿題 (課題) を忘れずにしていますか。(95.8%)」の設問は、肯定的回答 (A・B) の割合が高いが、「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。(55.1%)」の設問は、肯定的回答の割合が、やや低い。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆今年度の校内研究の成果をもとに、児童一人一台端末等のICTを効果的に活用した授業を実践していく。また、児童が、よりいっそう主体的に学習に取り組めるように、授業を工夫していく。</li> <li>◆毎年、年度始めに、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付している。今後もこの取組を継続し、家庭学習について、学校と家庭が連携して支援していく。</li> </ul>
<b>IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)</b>	
達成状況	<p>○肯定的回答 (A・B) の割合は、99.6%である。教職員それぞれの努力、家庭・関係機関との連携、また、情報を共有し、全教職員共通理解のもと、指導にあたることにより、児童は落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」の設問は、1人がC回答である。</li> <li>・「あなたは、キャリア教育 (キャリア・パスポートの活用、進路指導など) を児童の実態に応じて行っている。」の設問は、A回答よりB回答の方が多い。</li> </ul> <p>&lt;将来の夢や希望&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【保護者】 「お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。(75.5%)」</p> <p>【児童】 「将来の夢や希望をもっていますか。(87.2%)」</p>

達成状況	<p>&lt;規範意識&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。(97.6%)」  <b>【保護者】</b>「学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。(85.0%)」  <b>【児童】</b>「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。(97.6%)」</p> <p>&lt;教師と児童の信頼関係&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。(100%)」  <b>【保護者】</b>「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。(A回答いる:64.5%)」  <b>【児童】</b>「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。(A回答いる:80.9%)」</p>
改善策	<p>◆「子どもの心を大切にする。」をキーワードに、きめ細かな指導の支援を行うとともに、スクールカウンセラーの活用を含め、児童や保護者から相談しやすい体制を築いていく。</p> <p>◆昨年度からキャリア・パスポートの作成に取り組んでいる。児童が自己を見つめ、将来の夢や希望をもつことができるように、継続的に指導していく。</p>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<p>○肯定的回答 (A・B) の割合は99.5%である。保護者を含め、地域と連携しながら教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」は、A回答21.1%、B回答78.8%である。</p> <p>&lt;広報活動&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合  <b>【教職員】</b>「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。(100%)」  <b>【保護者】</b>「学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。(90.4%)」</p> <p>&lt;保護者・地域の声に耳を傾けている。&gt;  ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。(100%)」  <b>【保護者】</b>「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。(78.5%)」  (E回答&lt;わからない&gt;11.5%)</p> <p>&lt;PTA活動&gt; ※「 ( % )」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。(100%)」  A回答39.0% B回答61.0%  <b>【保護者】</b>「PTA活動に参加していますか。(55.2%)」  「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。(89.5%)」</p>
改善策	<p>◆新たな課題への対応、児童や保護者の多様なニーズに対応するためには、学校と地域の連携は、なくてはならないものである。今年度もコロナ禍のために、地域の人材や施設の利用に制限があったが、今後も地域との連携を深めていくための準備を行っていく。</p> <p>◆より良い教育活動を行うためには、保護者や地域住民の意見や要望に、誠意をもって対応し、信頼関係を構築していく必要がある。そのためには、日頃のコミュニケーションを大切に、情報を発信したり収集したりして、相互の信頼関係を築く努力を続けていく。</p> <p>◆保護者の負担軽減を考慮し、昨年度、今年度の状況をもとに、来年度以降もPTA活動の縮小化を図っていくこととした。必要なPTA活動を精選し、保護者の協力を求めながらPTA活動を行っていく。</p>

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は98.3%である。「学校の特色〔児童会活動、心の教育、みどりの時間（全校集会）〕」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたの学校は、みどりの時間の活動が充実したものになるよう、努めている。」の設問は、2人がC回答である。</p> <p>＜心の教育＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたの学校は、心の教育が充実したものになるよう、努めている。（100%）」  <b>【保護者】</b>「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。（59.7%）」  （E回答＜わからない＞22.3%）</p>
改善策	<p>◆コロナ禍のため、みどりの時間（全校集会）を実施できないことが多かった。また、例年6月に行っている道徳授業参を実施できなかったため、3学期に実施する予定だったが、これも実施できないことになってしまった。コロナが終息し、来年度は、みどりの時間、道徳授業参観がしっかり実施できることを願いたい。</p> <p>◆道徳の授業の様子、みどりの時間の中で行われている教職員からの「ちょっといい話」の様子など、たよりやホームページ等で保護者に伝えていく。</p> <p>◆今後も、学校の特色を生かした教育活動が充実したものになり、児童が生き生きと学校生活を送れるように、全教職員が協力して推進していく。</p>
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は99.1%である。「創甲斐教育」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>＜読書活動＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。（100%）」  <b>【保護者】</b>「お子さんに、すすんで読書するように言っていますか。（49.9%）」  <b>【児童】</b>「朝読書をごんばっていますか。（94.0%）」</p> <p>＜表現力＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、様々な場面、活動において、児童の表現力を高める取組を行っている。（97.5%）」の設問では、1人がC回答である。  <b>【児童】</b>「人前でしっかりと自分の意見が言えますか。朝読書をごんばっていますか。（76.0%）」</p> <p>＜体力向上＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合  <b>【教職員】</b>「あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。（100%）」  <b>【保護者】</b>「お子さんに、家庭や地域で元気よく遊んでいますか。（87.3%）」  <b>【児童】</b>「休み時間や放課後、元気よく遊んでいますか。（84.9%）」</p>
改善策	<p>◆朝の10分間読書、定期的な図書だよりの発行、読書週間での「おすすめの本の紹介」等の取組を継続して行っていく。</p> <p>◆今後も、授業、児童会活動、いろいろな場面において、表現力の育成を図っていく。</p> <p>◆今後も児童の体力向上や健康指導というねらいのもと、体育の授業、縦割り班での遊び、長縄大会等の取組、保健の授業、定期的な保健だよりの発行等、工夫していく。</p>

### 3 まとめ

#### <成 果>

- ・教職員自己評価，保護者アンケート，児童アンケートとも，全体的に肯定的に評価されており，学校教育目標，学校経営目標を達成できたのではないかと考える。

#### <課 題>

- ・評価項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるという認識を確かなものにして，学校，保護者，地域が連携しながら，引き続き豊かな教育活動の推進を図って参りたい。